

生徒が主体的に問題解決に取り組む社会科授業の実践 ～個別最適な学びと協働的な学びを通して～

新潟市立小針中学校 宇ノ井 祐太郎（令和元年度）

1 主題設定の理由

① 生徒の社会科に対するアンケートから（4月実施） ※かっこの中は人数

社会科は好きですか。			
好き	まあまあ好き	あまり好きではない	好きではない
30% (20)	32% (21)	25% (13)	13% (8)
・歴史が好きだから ・点数がそこそこ良いから ・やればやるだけ点数が上がるから ・暗記が得意で、単語がすぐ覚えられるから ・歴史が面白いから		・暗記が苦手だから ・覚える用語が多すぎるから ・歴史の人物や国の名前を覚えるのが苦手だから ・雨温図を見たり、歴史上の人物の名前を覚えたりするのが好きじゃないから	

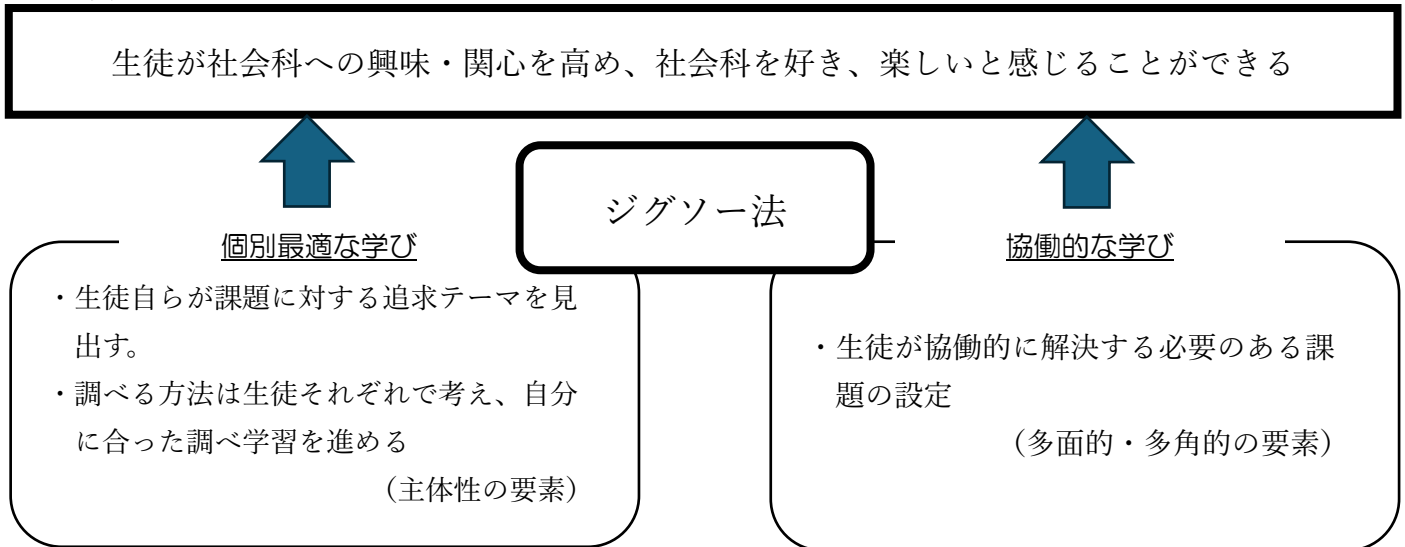
社会科の好き嫌いの判断が、テストの結果による考え、暗記科目として捉えたときの考えによるものが多い。授業者としては、生徒が主体的に学び、他者と協働して課題解決する中で、社会科への好きや楽しいの感情が湧くことが良いと考えた。

② 自分のこれまでの授業に対する取組から

現状を前にして自分の取組を振り返ったとき、自分が意識をして目の前の生徒を変えるための授業ができていないか疑問をもった。



理想の姿



2 研究仮説

効果的にジグソー法を活用することで、生徒は主体的に学び、社会的事象を多面的・多角的に捉えることができるようになる。その結果、生徒が社会科への興味・関心を高め、社会科を好き、楽しいと感ずることができる。

3 検証方法

授業後に行う生徒の振り返りとアンケートで検証を行う。

4 検証のための実践内容

	学年・分野	単元	学習課題
プレ	1年・地理	北アメリカ州	「なぜアメリカの農産物は安いのか？」 (R4年度 前赴任校で実施)
I	2年・地理	日本の地域的特色と地域区分	「今後日本は何発電に頼るべきなのか？」
II	2年・地理	九州地方	「沖縄は今後も開発を続けるべきなのか？」

◎実践プレ 北アメリカ州「なぜアメリカの農作物は安いのか？」

個別最適な学びに向けた手立て：調べる方法は生徒それぞれで考え、自分に合ったやり方で教師から配布された資料のみならず、書籍や周りの人との相談、教師と考える等、自分に合った方法で調べ学習を進めた。

協働的な学びに向けた手立て：ジグソー法を用いた協働的な学びの促進

北アメリカ州で大量生産の秘密、低コストを可能にしている秘密に関する資料を生徒が分担して調べた。調べた内容は班で共有し、学習課題について考えた。



・成果と課題

- 資料読み取りが苦手な生徒は仲間に助けを求めたり、1人黙々書籍から情報を見つけたりなど、生徒個々人に合った方法で調べることで、調べ学習の時間は有意義であったと感じた。
- 思考を促す活動が少なかった。ジグソーという形式だけをとった授業となり、調べ学習は頑張ったが、「言われた通り情報共有をし、なんとなくグルーピングをした」授業となった。生徒がジグソーでもち寄った情報が、そのまま学習課題に対する答えとなっていたのが原因であると考えた。もち寄った資料から、もう一歩先を考えることで、生徒の思考が促され、協働的な姿につながると考えた。

協働的な学びを促進するために、「協働的に解決する必要があるテーマ」が重要であると感じた。

◎実践I 日本の地域的特色と地域区分「今後日本は何発電に頼るべきなのか？」

個別最適な学びに向けた手立て：自分に合った方法で調べる、生徒自ら追求テーマを考える（易）

北アメリカ同様、調べ学習の方法は自分に合った方法で進めた。また、何を調べれば学習課題に迫れるかを生徒たちで考えた。ここでは様々な発電方法のメリットとデメリットの比較が課題解決の鍵となることを共有し、与えられた観点、資料ではなく、自分たちで調べたい観点、資料と向き合うことで、主体的に学ぶ姿を想定した。

協働的な学びに向けた手立て：協働的に解決する必要がある課題の設定

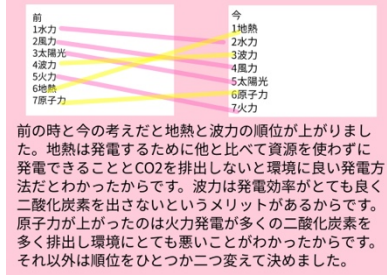
北アメリカ州で課題となった、協働的に解決する必要があるテーマ設定を心がけた。ジグソー法でもち寄った情報から、今後日本が頼る発電に、班でダイヤモンドランキングをつくった。それぞれの発電方法のメリットとデメリットを踏まえたうえで、班で対話を重ね決定していく姿を想定した。

1位・原子力の理由

原子力は二酸化炭素の排出量が他の再生可能エネルギーに比べても少なく、発電効率も高いから。発電所で事故が起こった際の被害が課題になっていると思うけれど、放射性物質が近隣に放出しないような装置、構造にできれば、環境に配慮した発電をしていると思う。

7位・火力の理由

地球温暖化・沸騰化の時代、温室効果ガスを大量に発生させる火力発電には頼らないべきだと思うから。



再生可能エネルギーだから良い、環境に影響があるから悪いではなく、どの発電方法にもよし悪しがある。それを理解した上で、より協働的な話し合い活動がジグソー法により可能となった。

・成果と課題（生徒の振り返りをもとに）

- 仲間の意見を聞き、自分だけでは考えることのできない多様な見方ができた。
- エネルギーについて時間をかけて学んだので、今後の日本がどうなっていくのか興味が湧いた。
- 周りとの対話によって、最後の最終決定で根拠をもって自分の考えを出すことができた。
- 最初の予想とあまり心境の変化がなかった。
- みんな同じような意見で積極的な発言が見られなかった。
- 話し合いに慣れていなく、積極的に発言することができなかった。

◎実践Ⅱ 九州地方「沖縄は今後も開発を続けるべきなのか？」

個別最適な学びに向けた手立て：自分に合った方法で調べる、生徒自ら追求テーマを考える（難）

エネルギー問題よりも、何を調べれば課題に迫れるかを考えるのが難しいと考えたが、クラス全員で粘り強く観点を出していった。結果、調べる観点が、自然、経済、文化、生活、情報にまとまった。

協働的な学びに向けた手立て：協働的に解決する必要のある課題の設定

本実践では「沖縄は開発を続けるべきである。」「沖縄は開発を止めるべきである。」の2つの意見対立で、協働的な姿が見られることを想定した。最初の考えと最後の考えで意見の変化はなくとも、根拠に基づいて説明ができるように、また、理解が深まるように、反対意見の人とグループを組んで調べ学習に取り組んだ。班での決定は、「もしみんなが、沖縄の（さまざまな意味での）発展に尽力する沖縄県議会メンバーであるなら」と、立場を明らかにすることで、最終的には沖縄のため、沖縄の未来のためにどうするかの話し合いができると想定した。

私は沖縄の開発を 続けるべき 止めるべき だと思う

理由
島の人に迷惑をかけない範囲で開発を進めれば良いと思うから。
また、開発することによって観光客が多くなって、お金が入ることにより、島の人々の生活も良くなるのではないかと思ったから。

生徒の最初の考え

私は沖縄の開発を 続けるべき 止めるべき だと思う

理由
理由は二つあります。一つ目は観光客が来ているお金を多くもらったことより豊かな自然をまもった方がいいと思ったからです。また、開発を続けてしまうと海や木だけにいきよがあるのではなく沖縄の固有種や絶滅危惧種にも影響があることが調べてわかりました。だから絶滅危惧種を一度無くしたらもう二度と会うことができないから自然を守りたいと思いました。二つ目は調べた資料からメリットよりもデメリットの方が多いのと物価が上がったり、治安にも影響したりすることは、沖縄に住んでいる人が良い思いをしないので観光客が増えて観光収入が増えていってもわざわざ沖縄を開発してあげるのあまり良くないから開発をしない方がいいと思いました。でも観光収入が増えるメリットもいけど開発以外で収入をえられると思いました。

生徒の最後の考え

予想から比較して、自分が調べた内容と仲間が調べた内容を加味し、自分の中で根拠をもったうえで、立場を明らかにできた生徒が多かった。

・成果と課題（生徒の振り返りから）

- 課題も調べる視点も自分たちで考え、関心をもって（主体的に）調べ学習ができた。
- 反対意見の人の話を聞いて自分の考えがより深まったと感じた。
- 沖縄が今後観光面でどうなっていくのか、気になったし、調べていきたい。
- 反対意見の人に自分の考えをもっと知ってもらいたかった。
- 話がいづまでも合意に至らなかった。
- （●多くの班がダイヤモンドランキングで、「経済発展」と「自然保護」の2極化になってしまった。）

5 検証結果（10月実施）

社会科は好きですか。			
好き	まあまあ好き	あまり好きではない	好きではない
56% (36)	31% (20)	9% (6)	3% (2)
<ul style="list-style-type: none"> ・暗記で覚えやすく、一つ一つの事柄が面白い ・外国や国内の自分の知らないところを知れるから ・自分が住んでいる日本の知らない事情や文化を知ることが好きになった。 ・苦手で大変だが、深く考えたり解決したりすると楽しいから。 ・話し合いで意見を深めたり友達と話したりするのが好きだから 		<ul style="list-style-type: none"> ・覚えることがたくさんあり、知識が必要だから ・社会はあまり得意ではないし、暗記することが苦手だから。 ・難しい言葉が多く、複雑なところや紛らわしいところが多く、覚えるのが大変だから。 	

- ・最初のアンケートで社会が好きな理由がテストに関わる回答…10/41
- ・最後のアンケートで社会が好きな理由がテストに関わる回答…4/56

- ・ジグソー学習を通じた話し合い活動と普通の授業を比べて（生徒のアンケートより）

- 自分の役割があり、より責任感をもって授業を受けることができた。
- 調べきれないことを、班のみんなと協力して取り組むことで答えが見えてくるので、理解が深まった。
- 自分のペースで調べることができ、班での交流もうまくいった。ジグソー学習の方が、その内容に積極的に取り組んでいる気がする。
- 普通の授業の方が楽しいしわかりやすい。

6 検証により学んだこと。成果と課題。

今回の検証により、ジグソー法だけでは、主体性の要素と多面的・多角的な要素を網羅することは難しいということがわかった。北アメリカ州の実践では、ジグソー法が目的化してしまっていた部分があった。ジグソー法ありきで授業を進めていった結果、自分のねらう理想の姿にはならなかった。あくまで理想の姿に近づくための手段として考えたときに、 $+\alpha$ で手立てを講じる必要があると考えた。実際、ダイヤモンドランキングやウェビングマップ、合意形成型の課題の設定など、エネルギーや沖縄の授業展開の中に細かい手立てをいれていくことで、少しずつ生徒の興味・関心が高まったように感じた。

課題はいくつも見つかった。まずはジグソー法というスタイルにおいて、授業者の扱うテーマに対する引き出しはとても重要になるということ。必要な生徒に必要な情報が提供できるようになると、その先のグループワーク、今回であれば合意形成の場が生徒にとってより一層充実した時間になったと思う。10月のアンケートでは社会科を好きになった生徒が多く、その理由に対しても自分が狙っていた通りになった。その一方で、依然として社会科を暗記教科と捉え、覚えることが多くて苦手だと感じる生徒も見受けられる。また、ジグソー法よりも普通の教師の講義形式での授業が楽しく理解しやすいと考える生徒もいる。授業者の立場からは嬉しい反面、その結果主体性を育む機会を損失し、普通の授業が楽だと感じているのであれば、考えていかななくてはならない事だと感じる。今回は地理的分野での実践となったが、歴史的分野、公民的分野でもジグソー法を用いた実践を考えていきたい。また、個別最適な学びと協働的な学びを充実させるために今回はジグソー法というスタイルをとったが、他にはどんな手段があるのかを考え、実践していくことも課題であると感じた。